

次の時代を読み解く

NEXT keyword

わが社のChallenge

そのメリットはコスト削減とスピーディーな導入だ。自社でシステムの開発を行えば、初期費用はもとより、運用管理費も大きな負担になる。ERPであれば、給与システムにおける社会保険料や税率の変更、販売管理システムにおける消費税増税などについてメーカーがバージョンアップを行うので、そのたびに多大なコストが生じることはない。

ERPは会計、人事、給与、生産や販売管理など企業の基幹業務を統一的、一元的に管理することで効率的に処理できるパッケージソフト。これまで自社でシステムを構築してきた企業でも、ERPに切り替えるところが増加しているという。

クラウド対応型も登場

今後、企業が競争を勝ち抜いていくためには競合他社に先駆けて最適なITソリューションを構築していく必要がある。スマートフォン（スマホ）やタブレット（多機能携帯端末）などのスマートデバイスの進化は著しく、クラウドなどの情報サービスやネットワークの利便性も広がる一方だ。豊富な選択肢の中から自社に適したものを柔軟に組み合わせることで、さまざまな経営課題を低コストで解決することが可能になった。経営課題の中でも、業務プロセスの効率化と省コストはIT活用で大きな効果が期待できるもの。そこで注目を集めているのがERPだ。

業務の効率化に効果

また、メーカーがそれぞれ得意分野で培ってきたアプリケーションとしての機能や操作性などの使い勝手の良さに加えて、スピーディーな導入を可能にすることも利点といえる。

最近では、スマートデバイスから利用可能なものやクラウド対応型などもそろい、企業規模や多種多様な業種に合わせた製品も登場している。従来の基幹業務システムと組み合わせたり、オプションを付加することで使い勝手の良さはそのままにオリジナルに近いシステムを構築することも可能。加えて、メーカーのサポートサービスなども充実している。

パッケージソフトとしての利点にきめ細かな対応を加えたERPの活用は業務改善に大いに役立つものといえるだろう。

企画・制作
日本経済新聞社クロスメディア営業局

広 告

ERP

Enterprise Resource Planning

システム、ネットワーク、デバイスが急速に進化し、IT（情報技術）は業務の効率化やスピードアップに欠かせないものになった。ただし、ITを効率的に活用するためには相応の人材の確保やコスト面など課題も多い。こうした中、業務改善に低コストで優れた効果を発揮する統合基幹業務システム（ERP）が注目を集めている。

